

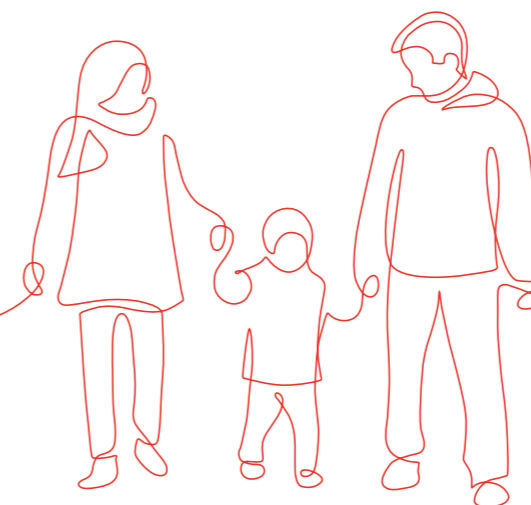
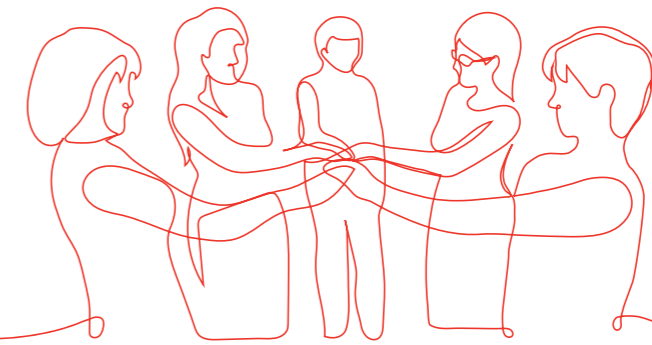
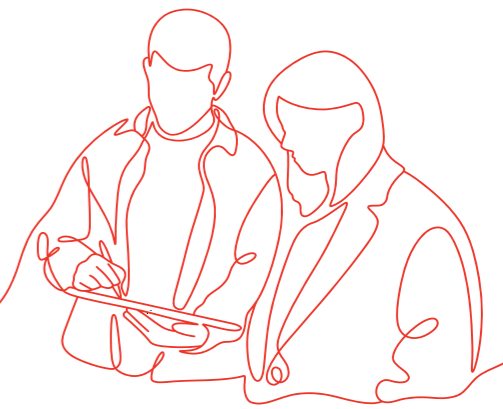
# Lilly

A MEDICINE COMPANY

Eli Lilly Japan K.K.  
Corporate Profile 2026-2027  
<https://www.lilly.com/jp/>

# Lilly

A MEDICINE COMPANY



日本イーライリリー  
会社案内 2026-2027  
<https://www.lilly.com/jp/>



# Our Values



## Our Purpose

世界中の人々の  
より豊かな人生のため、  
革新的医薬品に思いやりを込めて

Lilly unites caring with discovery  
to create medicines that make life better for people around the world.

Integrity  
誠実さ

Excellence  
卓越性の追求

Respect  
for  
People  
人の尊重

# 150年にわたるイーライリリー・アンド・カンパニーのあゆみ



**1876** イーライリリー大佐は、人々にとって真に有用な薬の開発をめざして、米国インディアナポリスでイーライリリー・アンド・カンパニーを設立

**1923** 世界で初めてインスリン製剤の大量生産を実現。一般販売を開始

イーライリリー・アンド・カンパニー(以下、リリー)は世界中の人々のより豊かな人生のため、科学に思いやりを込めて、革新的医薬品を創り出すグローバル製薬企業です。150年にわたり、リリーは患者さんの人生を変えるような発見や開発を続け、今日では医薬品を通じて世界中で数千万人もの人々を支えています。この世界の多様性を反映した革新的な臨床試験や医薬品へのアクセス改善を含め、「世界中の人々のより豊かな人生への貢献」という使命を胸に、リリーはさらなる健康な世界の実現に向けて、一歩ずつ歩みを進めてまいります。

## イーライリリー・アンド・カンパニー

2026年に創業150周年を迎え、約90か国でビジネス展開

本社所在地	米国インディアナポリス
社員数	50,000人以上
設立	1876年5月10日
売上高	651.8億ドル(2025年度)
代表者	デイビッド・A・リックス



## 日本イーライリリー

日本でのビジネスは100年以上の歴史、米国に次ぐ最大の支社

本社所在地	兵庫県神戸市
社員数	約2,750人
設立	1975年11月1日
売上高	2,760億円(2025年度)
代表者	シモーネ・トムセン



## Aspirations to be the Leading Medicine Company in Japan

日本においては、日本イーライリリーが50年にわたり、最先端の科学技術を基盤とした革新的医薬品の研究開発および供給に継続的に取り組んでいます。2030年までに業界をリードする製薬企業になることを目標に掲げ、より多くの患者さんに革新的な医薬品を迅速にお届けすることに加え、誰もが必要な医療を安心して受けられる社会づくりや、人々の健康で豊かな人生の実現に貢献してまいります。



**1943**

世界初の抗生物質・ペニシリンの大量生産手法を開発



**1955**

ソークポリオワクチンを世界で初めて製造・販売

**1961**

リリー初となる抗がん剤、ピンプラスチンを複数のタイプの抗がん剤として発売

**1982**

世界で初めて遺伝子組み換えヒトインスリン製剤の誕生

**2008**

世界中の社員が毎年一斉にコミュニティ支援を行う「デイ・オブ・サービス」を開始

**2011**

毎年100名近くの社員をアフリカ、アジア、ラテンアメリカなどの国々に派遣し、地域での健康的な生活促進のためのボランティアを行う「コネクティング・ハーツ・アブロード」を開始

## 日本イーライリリーのあゆみ

**1923**

リリーのインスリン製品が日本市場に導入

**1965**

イーライリリー・インターナショナルコーポレーションの日本支社を開設

**1975**

日本イーライリリー株式会社を設立

**1981**

西神工場(兵庫県神戸市)を開設

**2004**

世界同時開発の挑戦を開始  
ウイメンズネットワークが発足

**2018**

日本イーライリリーの本社を新オフィス(兵庫県神戸市)に移転

**2020**

「健康経営優良法人認定」およびPRIDE指標で「ゴールド認定」を初取得

**2025**

日本法人設立50周年



# グローバルな 研究開発型製薬企業として

糖尿病治療における変革に加え、肥満症やアルツハイマー病への継続的な挑戦、自己免疫疾患へのソリューション提供、そして最も治療の困難ながん(癌)を管理可能な疾患に変えること。

こうした世界で最も重要とも言える健康課題の解決を目指し、リリーの科学者たちはバイオテクノロジー、化学、遺伝子医学を駆使して一刻も早く患者さんに医薬品をお届けできるよう、開発に取り組んでいます。

## 豊富な新薬開発パイプライン

リリーは注力領域の新規化合物の開発と適応追加に向け、臨床試験の第I相から第III相の各段階において開発品目を数多く有しています。

臨床試験参加者のご理解とご協力を得ながら、医療従事者と協働して臨床試験を進めています。

### 4つの注力する疾患領域



ダイアベティス・  
オベシティ・  
心・腎領域



がん



アルツハイマー病  
などの  
中枢神経系疾患



自己免疫疾患

## 世界各地での積極的な開発

いまだ数多く存在する患者さんのアンメットニーズに応えるために、グローバルで12,000人以上が研究開発に従事しています。研究開発拠点は8か国、臨床試験は55か国以上に広がっています。

また、リリーは業界でもトップクラスとなる売上高の約20%にのぼる研究開発費を投じ、新薬開発に日々臨んでいます。



## 需要への柔軟な供給体制の整備

リリーの製品は9か国で生産されており、約90か国に供給されています。革新的な医薬品への需要増加や研究開発パイプラインの拡充を背景に、将来の供給拡大に迅速かつ柔軟に対応するため、2020年以降リリーはグローバルで約550億ドルを投資して体制整備を進めています。



# より多くの日本の患者さんに、 より早く革新的な医薬品を お届けするために

日本イーライリリーは戦略として世界同時開発を進めるとともに、  
研究開発や供給機能への継続的な投資を行っています。

世界同時開発戦略

医薬品の  
安定供給体制  
の整備

革新的な新薬を  
一日も早く  
日本の患者さん  
にお届けするために

グローバルの  
ポートフォリオを  
100%カバー

## 世界同時開発戦略

革新的な医薬品を日本に届けるため、グローバルのポートフォリオを100%カバーし、国際臨床試験への参画を中心とした世界同時開発を戦略として進めています。さらに日本独自の患者さんのいまだ満たされない医療ニーズにお応えするため、日本がグローバルを主導するプロジェクトも進めています。

## 小児用医薬品の開発

2013年より小児用医薬品開発においても世界同時開発戦略のもと、たゆまぬ努力を重ねています。2018年には小児用医薬品開発のアドバイザリーハブが発足しました。各組織部門からの代表者や専門家が兼任する形で集まり、組織横断的・疾患領域横断的な開発を支えています。今後も、成人か小児かを問わず、必要な患者さんに必要な医薬品をいち早くお届けできるように取り組んでまいります。

## 将来にわたって安全・安心な製品を届けるために

神戸市西区の西神工場では、海外から届いた製品の品質試験・検査・包装を行っています。日本の患者さんに向けた将来的な医薬品の供給能力増強のため、2022年から2028年の間に計270億円を投資し、最新鋭の技術を取り入れた設備投資を進めています。



# 患者さんやご家族の声を 社会に届ける

患者さんやご家族の想いに寄り添いながら、当事者との対話や周囲の理解促進を通じて、患者さんがより自分らしく暮らせる社会や文化の醸成を目指しています。

また、多様なステークホルダーと連携し、医療と社会をつなぐ仕組みづくりや政策提言にも取り組んでいます。



## リリー・オンコロジー・オン・キャンパス

患者さんご本人、ご家族、ご友人などの“がんの経験”を通じて、言葉だけでは伝えきれない想いをアート作品とエッセイで表現するデジタル×アート・アナログ×アートコンテンツを開催しています。アートを作る制作過程が、がん患者さんやご家族・ご友人にとって、気持ちを整理して自分自身と向き合うきっかけとなることを願い、2010年に創設しました。



作品はウェブサイト  
<https://www.lilly.com/jp/locj>で紹介しています。

## リリー インスリン50年賞

インスリン治療を50年以上継続されているダイアベティス(糖尿病)とともに歩む人の長年の努力を称えとともに、ほかのダイアベティス(糖尿病)とともに歩む人が治療に前向きに取り組む目標となることを願い、1974年に米国で設立されました。日本でも2003年から顕彰し続けています。



## 「その肥満、肥満症かも！」プロジェクト

BMI25以上の状態をいう「肥満」と異なり、「肥満症」は治療を必要とする疾患です。放置すると、重篤な他の疾患を引き起こしたり、悪化させたりするリスクがあります。しかしオベシティ・スティグマ(偏見や差別)が存在し、「自己管理」の問題と軽視されがちです。そこで、当事者が必要な治療を適切に受けられるよう、肥満症に対する社会の正しい理解促進活動を、当事者向け、一般生活者向け、企業・団体向けなど幅広く展開しています。



## 「また、にしない。まだ、にしない。」 認知症早期対応のための合言葉

認知症を誰もが身近なものとして正しく理解し、早期対応に一步踏み出しやすい社会の実現を目指し、認知症の当事者(ご本人・ご家族)、医師、ならびに賛同企業・団体とともに合言葉『また、にしない。まだ、にしない。』を考案しました。本合言葉のもと、啓発ポスターの制作・提供や各種疾患啓発活動を通じて、認知症の正しい理解と早期対応の重要性を広く発信しています。



## ヘルスケア・イノベーションフォーラム

日本イーライリリーと米国研究製薬工業協会(PhRMA)は、2018年より「ヘルスケア・イノベーションフォーラム」を毎年共催しています。同フォーラムでは、創薬イノベーションが持続可能な国民皆保険制度と健康寿命の延伸に果たす役割について議論してきました。その時々々の創薬をめぐるイノベーションの進展や、関連する社会課題・政策的課題に応じたテーマを設定し、日本と海外のオピニオンリーダーによる議論を通じて、政策関係者に向けた提言などを行っています。





# 多様な社員が最大限に能力を 発揮することで、 イノベーションを創出する

リリーで働くすべての人々が多様な価値観を互いに尊重し、幅広い多様性を受け入れ活かす  
インクルーシブな職場環境を醸成することが、社員一人ひとりの成長や最大限の活用を促します。  
そうして私たちは、多様な患者さんへの理解を深めるとともに、  
革新的医薬品のためのイノベーション促進を可能にします。  
性別、障がいの有無、性的指向、性自認、年齢、国籍、人種、宗教、信条や価値観、そして働き方など、  
その他さまざまな違いにより区別・差別されることなく、一人ひとりがその能力を最大限に発揮できるよう、  
インクルージョンの推進に組織全体で積極的に取り組んでいます。

## 社員リソースグループ(ERG:Employee Resource Group) 社員主導でインクルーシブな職場環境を醸成

### GEN (Gender Equity Network)

性別、ライフイベントの状況に関わらず、社員が活躍できる環境整備やジェンダーに関連して生じるチャレンジの是正をリードするグループです。女性のキャリアやリーダーシップの開発育成、女性営業社員の育休復職や男性育休取得などの課題に対して、人事部門とも協働しながら、原因や仕組みの分析、社内への啓発活動を実施しています。

### enAble Japan

病気・障がい・長期的な健康上の問題を抱えながら働く社員に対する認識を高め、適切なサポートの提供や、バリアを取り除くための活動をリードするグループです。障がいを価値ある違いのひとつとして捉え、社員によるストーリーテリングやアクセシビリティ向上を通じて、障がいを自信にできる文化を構築します。

### Generation

社員がつながり、キャリア環境を整え、互いの世代の理解を深めるとともに、特に、若手社員の声を活動に生かし、世代の多様性促進をリードするグループです。社員同士のネットワークの構築に加え、若手社員の意見を経営層に届け、意思決定に社員の声を活かす、活かされるための取り組みを進めています。2025年より、若手が経営層のメンターとなるリバースメンタリングを開始しました。

### LGBT + Ally

社内でのLGBT+理解促進を進め、性的指向や性自認に関わらず誰もが働きやすい職場づくりをリードするグループです。社内啓発に加え、当事者が相談できる窓口としても存在しています。また、神戸レインボーフェスタへの参加など、製薬業界や地域との協働を通じて社会的インパクトを創出。これらの取り組みが評価され、PRIDE指標で6年連続ゴールド認定、2025年には初のレインボー認定を取得しました。



## アクセシビリティ 誰もがアクセス可能な環境づくり

リリーは、能力や特性、置かれている状況の違いにかかわらず、すべての人が情報やツールにアクセスできる環境の実現を目指しています。社員の声に耳を傾け、自動ドア導入やコピー機の高さ変更、また全社会議での日英・手話通訳や字幕表示などを取り入れています。社外に向けても資料やウェブサイトの作成、イベントの開催時にアクセシビリティの向上を進めています。

## 社員の健康と安全、 ウェルビーイングな働き方に向けて

Our Purposeの実現のためには、社員一人ひとりが心身ともに健康であることも重要です。「Live Your Best Life」を理念に、社員が安全に働ける環境整備に加え、生活習慣に配慮した疾患予防の取り組みや教育を通じて、社員の健康増進を図っています。行政や近隣企業と協働し、疾患や健康に関する情報提供やよりよい生活のための支援を行うことで、地域の健康寿命の延伸にも貢献してまいります。  
こうした継続的な取り組みが評価され、「健康経営優良法人認定制度」の大規模法人部門において、7年連続で認定を受けています。



# 社会とともに 持続可能な発展に向けて

コミュニティが抱える社会課題の解決や改善に努めることで、  
ソーシャルインパクトを創出し、より良い暮らしの実現を目指します。



## 世界中で社員が一斉にボランティア

毎年秋に全世界のリリー社員は、業務時間内も含めてコミュニティへの貢献活動に取り組んでいます。日本では「リリージャパン・デイ・オブ・サービス」として、社員一人ひとりが各地域の社会課題に目を向け、チャリティーウォーク、献血、物品寄付、清掃活動など、多様な取り組みを行っています。あわせて、社員の活動実績に応じた金額を、震災・災害復興支援やヤングケアラー支援を目的として寄付しています。



## 教育、ボランティア、医療に携わる功労者を顕彰

日本イーライリリーは公益社団法人日本看護協会と2025年に「第21回ヘルシー・ソサエティ賞」を共催しました。本賞は、地域社会や国民のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献する個人の活動を顕彰することを目的としており、より健全で思いやりにあふれた社会の実現に向けた取り組みに光を当てることで、社会全体への周知と理解の促進を目指しています。



## ヤングケアラー リエゾンプロジェクト

日本の未来を支え、患者さんなどケアを必要とする家族を支える子どもたちの、より豊かな人生の実現を目指し、2022年より取り組みを開始しました。ヤングケアラーへの理解向上や周囲の気づきの拡大、そして支援する仲間を広げるための啓発活動を展開しています。有志社員が中心となり、社外の支援団体や企業、行政との協働を軸に、地域の子どもの食堂や児童館、学校を対象にした図書寄贈や、医療従事者や近隣企業に向けた研修を実施しています。2026年には活動が認められ、「企業フィランソロピー賞—支える人を支える賞」を受賞しました。

